

平成 26 年度日本植物病理学会関西部会のお知らせ

平成 26 年度関西部会開催地委員長 佐藤 幸生

平成 26 年度日本植物病理学会関西部会を下記のとおり開催致しますので、万障お繰り合わせの上、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

I. 日程と会場（時刻は予定です）

- ・日時：平成 26 年 9 月 27 日（土） 13：00～14：00 総会
14：15～17：30 一般講演
18：00～20：00 懇親会
- 平成 26 年 9 月 28 日（日） 9：00～12：00 一般講演

- ・会場：富山大学五福キャンパス 共通教育棟
〒930-8555 富山市五福 3190 番地 <http://www.u-toyama.ac.jp/access/gofuku/index.html>
- ・懇親会場：富山大学生協食堂

II. 参加申込

- ・締切：平成 26 年 8 月 7 日（木）
- ・費用：参加費 3,000 円（締め切り日以降は 4,000 円）、講演要旨集 1 部 2,500 円、懇親会費 4,000 円（学生 3,000 円）
- ・要領：同封の郵便振替払込取扱票（口座番号：00720-5-41105、加入者名：平成 26 年度日本植物病理学会関西部会）（他行からの振込みをされる場合は、店名：〇七九店、当座、口座番号：0041105）に必要事項を記入し、締切日までにご送金ください。払込用紙の通信欄のコピーを、領収書・講演要旨集などの宛先ラベルとして使いますので、送り先・氏名などは正確に記入して下さい。郵便振替払込取扱票による送金をもって部会参加の申し込みとします。整理の都合上、払込用紙は参加者 1 名ごとに 1 枚をお使いください。払込用紙をさらに必要とされる場合は、郵便局に備え付けの用紙をご利用ください。参加を申し込みました方には、9 月中旬に講演要旨集ならびに名札をお送りします。この名札は領収書を兼ねますので、部会参加期間中は必ず携行してください。

III. 発表申込

- ・締切：平成 26 年 8 月 7 日（木）17：00
- ・要領：発表ができるのは日本植物病理学会会員（平成 26 年度会費納入者）で、1 人 1 題のみとします。発表希望者は、末尾「講演要旨原稿作成要領」に従って講演要旨原稿を MS-Word ファイルで作成し、E-mail 添付ファイルとして関西部会プログラム担当用アドレス (byouri.toyama@gmail.com) 宛にご送付下さい。E-mail の題名（件名）は、「要旨」+「:」+「発表者氏名」として下さい。また、添付ファイル名は「発表者氏名.doc あるいは.docx」として下さい。原稿が正しく受け付けられた場合には、受け取りの

メールを送付者宛に返送します。受け取りのメールは1〜3日で送付しますが、届かない場合は正しく受け付けられていない可能性がありますので再送付して下さい。講演要旨原稿送付をもって発表の申し込みと致します。なお、講演要旨は座長等による審査の後に「日本植物病理学会報」に掲載されます。

IV. 発表の形式と要領

- ・発表形式：今年度の部会での発表は口頭のみで行います。ポスター発表は行いません。

また、PCの操作は演者ご自身に実施していただきます。

- ・口頭発表要領：口頭発表は討論時間を含めて12分程度を予定していますが、演題数によって変更することがあります。当日発表で使用するPCは全てWindows機で、PowerPoint 2007がインストールされていますので、発表ファイルは「PowerPoint 2007あるいはそれ以前のバージョン」で作成して下さい。発表用ファイルは、前もってWindows版「PowerPoint 2007」で正常に表示されることをご確認ください。ファイル名はすべて半角で「講演番号-発表者姓」として下さい（例「123-Sato」）。ファイルは必ずCD-Rに保存し、さらに、そのCD-R表面に講演番号と発表者氏名を油性マジックで記入の上、受付に提出し、動作を確認して下さい。また、重いファイルはパソコンの動作に不具合をきたすことがありますので、できるだけ軽いファイルにして下さい。

V. 宿泊と交通

開催地事務局では宿泊・交通等の斡旋は行いませんので、各自で手配をお願いします。

<会場までのアクセス>

<http://www.u-toyama.ac.jp/access/gofuku/index.html>

JR富山駅からは市内電車やバスの利用が便利です（約20分）。バスはJR富山駅前の富山地铁・路線バス「富山大学経由」南口3番乗り場からです。



VI. 連絡先

平成 26 年度関西西部会の連絡先は下記のとおりです。

開催に係わる各種お問い合わせは開催地事務局（守川俊幸）へお願い致します。講演発表の申し込みはプログラム担当（川部眞登・桃井千巳）までお願い致します。

- ・平成 26 年度日本植物病理学会関西西部会開催地事務局

〒939-8153 富山県富山市吉岡 1124-1 富山県農林水産総合技術センター農業研究所 病理昆虫課

TEL : 076-429-5249 守川俊幸

E-mail : toshiyuki.morikawa@pref.toyama.lg.jp

- ・関西西部会プログラム担当

〒939-1327 富山県砺波市五郎丸 288 富山県農林水産総合技術センター園芸研究所 花き課

TEL : 0763-32-2259 川部眞登、桃井千巳

E-mail : byouri.toyama@gmail.com

講演要旨原稿作成要領

昨年度と同じです。

<全体の大きさ> 和文講演者氏名から所属略称までが、縦 73mm、横 161mm の枠におさまるようにする。1 つのファイルに収める講演要旨原稿は 1 つとすること。

<ページ設定>

ー用紙サイズ：A4 用紙、縦方向。

ー余白：上 15mm、下 30mm、左 25mm、右 25mm。

ー文字数と行数：「文字数と行数を指定する」を選択し、文字数 50、字送り 9pt、行数 51、行送り 14pt にする。

<配置> 両端揃え（所属略称のみ右端揃え）

<フォント>

ーフォントサイズ：すべて 9pt。

ー日本語用フォント：平成明朝または MS 明朝（但し和文題目のみ平成角ゴシックまたは MS ゴシック）

ー英数字用フォント：Times New Roman。すべて半角。

ー句読点：「,」「,」

ーイタリック指定：題目、本文中とも、学名などイタリックにする必要があるものはすべてイタリックで表記。

<和文講演者氏名>（1 行）講演者が複数の場合は中点「・」で区切り、発表者名の前に丸印「○」をつける。所属が異なる場合には、上付き番号「¹」「²」で区別する。

<和文題目>（2 行以内）フォントは平成角ゴシックまたは MS ゴシックとする。

<英文講演者名と英文題目>（2 行以内）氏名は、family name, first name initial, middle name initial の順に書き、initial の間にはスペースを空けない。講演者名と英文題目の間は、コロン「:」で区切る。

<本文> 9 行以内で記載する。

<所属略称>（1 行）括弧「()」に入れ、右端揃えとする。複数の場合は中点「・」で区切り、和文講演者氏名に対応させて上付き番号「¹」「²」をつける。

講演要旨原稿の下に、以下の情報を記入する。

- (1) 発表希望分野 (「糸状菌病」「細菌病」「ウイルス病」「その他」の中から1つ選ぶ)
- (2) 発表内容 (「分類・同定・診断」「発生生態」「感染生理」「防除」「その他」の中から1つ選ぶ)
- (3) 対象植物 (和名または学名で示す)
- (4) 対象微生物 (和名または学名で示す)
- (5) 原稿送付者の氏名
- (6) 原稿送付者の E-mail address
- (7) 発表者の学会会員番号 (会員番号は封筒の宛名シールに記載されています。平成 26 年度会費未納の方は、至急会費をお支払いください。)

講演要旨原稿の例

(実際の大きさです。点線枠は要旨集に掲載される範囲を示すもので、印字の必要はありません。)

○桃井千巳・森脇丈治¹・守川俊幸²

大腸菌発現タンパク質抗血清を用いたチューリップ条斑ウイルスの検出

Momonoi, K., Moriwaki, J. and Morikawa, T.: Serological Detection of *Tulip streak virus* using Antiserum to Recombinant Virus Coat Protein.

チューリップ生産現場では、血清学的診断法である TBIA 法により大量のウイルス検定が実施されており、ウイルス抗血清の安定供給が必要不可欠である。一方、チューリップ条斑ウイルス(TuSV)は純化が極めて困難なウイルスであり、新たな抗血清の作製は容易ではない(守川ら, 2004)。そこで、大腸菌による組換えタンパク質発現系を利用した抗血清の作製を試みた。TuSV 感染チューリップ葉から TuSV の CP の全長 ORF を RT-PCR により増幅し、MBP 融合タンパク質発現用ベクター pMAL-c5X に挿入した。これを形質転換した大腸菌 ER2523 は、37℃では MBP-CP 融合タンパク質を発現せず 25℃で発現可能であった。培養菌体 9.7 g から MBP 親和性カラムを用いて目的タンパク質を精製し、ウサギに免疫することにより抗 TuSV-CP 血清約 100 mL が得られた。TBIA 法によるウイルス検定を行ったところ、TuSV 感染チューリップと特異的な陽性反応が認められ、抗血清 20,000 倍希釈でも十分なシグナルが得られた。

(富山農総セ園研・¹九州沖縄農研・²富山農総セ農研)

ウイルス・ウイロイド病

検出・診断

チューリップ

チューリップ条斑ウイルス

桃井千巳

xxxxxxx@xxx.toyama.lg.jp

12345